

先日、附属小学校の「ライオン池」(超ビオトープ)と附属幼稚園の金魚池に、プランクトンをもらいに行きました。その帰り道、大学本館の角にあるモミジの木の葉に、緑色のものがたくさんついているのに気づきました。最初は「モミジの翼果」かな?と思ったのですが、近づいてよく見ると、それは何かの幼虫でした。体全体が緑色で、全身がびっしりと棘に覆われています。これは明らかに「イラガ」の幼虫です。

「イラガ」は漢字では「棘蛾」と書きます。イラガの成虫は地味な姿で毒もないのですが、大問題なのは幼虫です。日本にはイラガの仲間が17種類生息しているそうですが、そのすべての種類の幼虫に毒があります。幼虫の棘に触るとその瞬間に「電気ショックを受けたような」あるいは「ハチに刺されたような」痛みを感じます。その後患部が腫れたり水泡になったりと、厄介な虫です。そうした性質から「デンキムシ」「イタイイタイムシ」といった異名もあります。

今回見つけたイラガの幼虫は「ヒロヘリアオイラガ」という種類で、ひととき鮮やかな緑色をしています。オレンジ色の棘があるほうが「頭部」です。まるで葉にとまった「ウミウシ」のようで、一種の美しささえ感じさせます。私は小学生の時、不覚にもこのヒロヘリアオイラガの幼虫を素手でつかまえようとして、えらい目に遭いました。指先だけでなく、咄嗟に振り払った幼虫が運悪く腕にのっかって、そこも赤く腫れ上がりました。自宅近くの皮膚科に何回も通うことになり、その時からカイク以外の幼虫は苦手になりました。(今でもNGです)

ちょっときれいで、見る者によってはかわいらしく感じるので、通学中の附属小学校の児童、散策中の幼稚園児、こども園児が触ると大変です。私はさっそく、小学校の副校長、それに幼稚園や子ども園の先生に注意するように伝え、大学施設課にも早々に駆除するように連絡しておきました。

